

☆主の公現(1月7日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (イザヤの預言 60章 1-6節)

エルサレムよ、起きよ、光を放て。
あなたを照らす光は昇り、主の栄光はあなたの上に輝く。
見よ、闇は地を覆い、暗黒が国々を包んでいる。
しかし、あなたの上には主が輝き出で主の栄光があなたの上に現れる。
国々はあなたを照らす光に向かい王たちは射出するその輝きに向かって歩む。
目を上げて、見渡すがよい。みな集い、あなたのもとに来る。
息子たちは遠くから、娘たちは抱かれて、進んで来る。
そのとき、あなたは恐れつつも喜びに輝き、おののきつつも心は晴れやかになる。
海からの宝があなたに送られ、国々の富はあなたのもとに集まる。
らくだの大群、ミディアンとエファの若いらくだがあなたのもとに押し寄せる。
シェバの人々は皆、黄金と乳香を携えて来る。
こうして、主の栄誉が宣べ伝えられる。

第二朗読 (使徒パウロのエフェソの教会への手紙 3章 2、3b、5-6節)

皆さん、あなたがたのために神がわたしに恵みをお与えになった次第について、あなたがたは聞いたにちがいありません。秘められた計画が啓示によってわたしに知らされました。この計画は、キリスト以前の時代には人の子らに知らされていませんでしたが、今や“霊”によって、キリストの聖なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。すなわち、異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあずかる者となるということです。

福音朗読（マタイによる福音書 2章 1-12節）

イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」

これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

『ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」

そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。

彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

元旦に大きな地震が発生し今も避難生活がままならない状況が続いています。また羽田空港では飛行機同士の衝突という惨事が起きました。このような中での私たちの生活ですが、被災した方々のためにできる支援と祈りを捧げましょう。特に地震は避けることのできないものですし、首都圏に住んでいる私たちには首都直下型地震の恐れがあります。日常生活を送りながら災害への備えを怠らないようにしましょう。

さて今日は主の公現の主日です。福音では東の国の学者たちの訪問が読まれますが、これは主の救いの恵みがすべての人に及ぶことを表しているのです。主の救いはキリスト信者の独占物ではないのです。主の救い・福音は喜びの便りであり私たちが喜んでより多くの人に伝えるべきものなのです。

第一朗読（イザヤの預言 60章 1-6節）

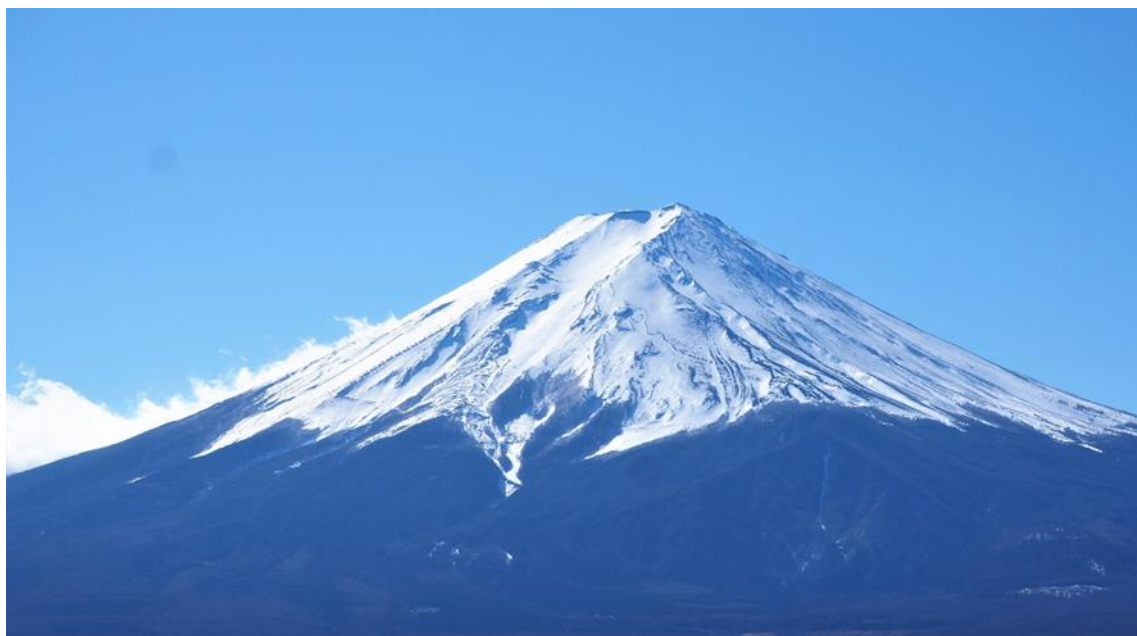
山に登ったり海辺を散策したりするときに日の出に遭遇することがありますが、特に山での日の出の瞬間は荘厳なものです。あたりを徐々にしかし確実に照らし温めていきます。今日のイザヤ書はまさにそのような光景、主の光が辺りを照らし恵みがもたらされる様子を歌っています。太陽の光は誰かれの区別なく照らし温めていきます。主の恵みの光も同じように人々の中に希望のともし火を灯していくのです。今日のイザヤ書は大変威厳に満ちた言葉で主の栄光を歌っています。私たちもこぞって主の栄光を歌いましょう。

第二朗読（使徒パウロのエフェソの教会への手紙 3章 2、3b、5-6節）

パウロは自分に対する啓示について述べています。アブラハムの子孫たちすなわちイスラエルの与えられた約束が今は異邦人にも、全人類に与えられているということです。神の救いの恵みはもはやイスラエルの民族にだけ与えられたものではないということです。イエスはすべての民族の一人ひとりの救いを望んでいるのです。私たちはキリスト者となっただけで自動的に救いに与るのではなく、神の望まれる生き方をする必要があります。

福音朗読（マタイによる福音書 2章 1-12節）

占星術の学者たちがイエスを拝みに来た次第が語られています。この学者たちは何をもって幼子イエスをメシアと認めたのでしょうか。東方で見た星が再び現れ、イエスの在られるところで止まったとあります。天体の自然現象でしょうが、その中に神の御業を認めたのでしょうか。私たちは神の現存はいたるところに示されていることを信じる必要があります。神の救いの御業の観点から物事を見ていくのです。また「ヘロデのところへ帰るな」とのお告げを受けて、別の道を通って自分の国に戻ったとあります。悪への道に誘うところ、物事に再び戻らないようにすべきとの導きだと思えます。



新春の富士（2020年1月）富士吉田市

P.S.

石川県能登半島の大地震。日がたつにつれてその被害の大きさが判明し、何もできない自分の無力さを強く感じます。皆さま出来る範囲で自分事として支援いたしましょう。きっと被災地には教会もあります。兄弟的な愛をもつての支援が必要です。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光